授業づくり研修講座　実践レポート

栗原小　　　　学校　　氏名　　奥村　由美

単元名　　第　　学年　　　算数「わり算の筆算を考えよう」

第4学年　少人数教室（クラス18人）

実践のポイント（工夫）

・黒板での書き方や口頭での説明の仕方

実践内容

|  |
| --- |
| 1. **９０÷２０を暗算で答える時のあまりや、０の付く計算の０を省略して筆算で計算したときのあまりについて**   「０をとって計算したので、１つあまりに０を付ける。」や「０がないものとして計算したので、0を付ける。」の説明がほとんどで、ノートを見ても同じ考えだった。また、あまりがなぜ１ではなく１０なのかの理由を説明しても、ノートに書き取っていた児童はほんの数人で、振り返りを見ても、先生の説明で理由が分かったとは書いているが、どんな説明なのか書けていなかった。  　　　また、２７００÷４００の０を省略しての２７÷４の計算でも、あまりが３で  はなく３００だという説明ができなかった。  どちらの問題も最終的には検算をしておかしいと気付くが、計算のしくみを十  分に理解できてなく、いろいろな方向から考えて説明することができないので、  今後もこういった問を投げかけ、思考力を鍛えていきたいと考えている。    ②　**教科書の計算が間違えている理由を述べ、正しい計算をしよう**。  ノートには、考えが分かる計算や図、必要な言葉だけ書き、作文のように文章を書かず、箇条書きで良いことを伝えた。また、説明する時にどの言葉が分かりやすいか、言葉を選んで補足し、黒板には考えが分かる計算や図だけでよいことを話した。  また、間違っている理由の説明でなく、考え方を説明する児童に対して、すぐに「いいと思います。」「同じです。」と言わないように注意し、どの説明が良かったか比べながら聴かせた。「間違っている理由を述べ」とあるのだから、「なぜこの計算が違っているかと言うと、～だからです。」ということをおさえた。前にもこういう問題をやった事を思い出させ、他教科でも書き方や説明の仕方に気を付けるように促した。 |

振り返り（成果や課題）

・なぜ、どうしての発問を普段の授業で日常的に行い、考えさせることを心がけている。前に出て黒板に書きたいと思っている児童はいるが、説明をするとなると、発表を躊躇してしまう児童も多い。算数の時間に説明はさせても、その説明を推敲させることが難しいので、多くの児童に説明する機会を与え、どういう説明が良いのか示していきたい。